



公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会より提供



GREEN×EXPO 2027
公式マスコットキャラクター
トゥンクトゥンク

GREEN×EXPO 2027 YOKOHAMA JAPAN

©EXPO 2027

2027 年、横浜市の旧上瀬谷通信施設で

GREEN×EXPO 2027（2027年国際園芸博覧会）が開催されます。

テーマは“幸せを創る明日の風景”

咲き誇る花々や濃い緑、農の収穫と食の豊かさ、人々の多彩な交流等、

横浜・上瀬谷にしかない時間・空間・価値を世界と共有します。

開催期間 2027 年 3 月 19 日～ 9 月 26 日

開催場所 横浜・上瀬谷

<https://expo2027yokohama.or.jp/>



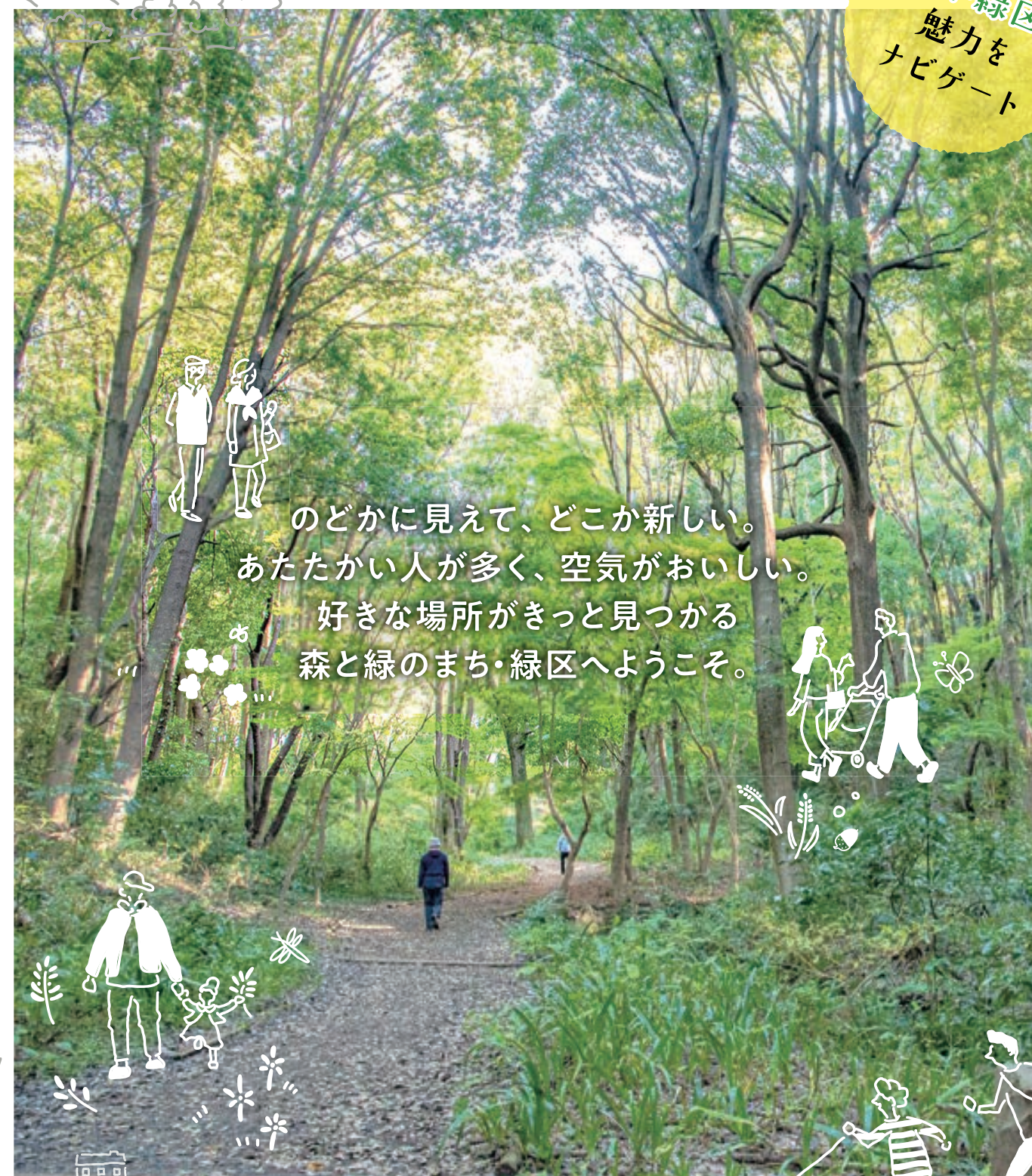
〈写真提供〉本書の★マークの写真は横浜市緑区フォトアーカイブ及び CC BY 4.0（<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>）のライセンスの下に提供され、その一部を改変して掲載しています。
篠原 勝清（P4 上）、「虫取り少年」（P4 中右）、「舞降りる平和の使い」大家 英夫（P5 右下）、P10「大物ゲット！」宮田 吉秀。ほか以下の皆様より写真をご提供いただきました＝三保ねんじゅ坂プレイパーク、佐藤農園、レオラジオ（P6 前田養鶏場）、みどりアートパーク、松井奈穂（P9 上右 Co-coya マルシェ）、がらっと kiricafe、Co-coya、みどり国際交流ラウンジ（掲載順）

Midori Ward Guidance

みどりでみつける

緑区魅力ガイド

横浜・緑区の
魅力を
ナビゲート



のどかに見えて、どこか新しい。
あたたかい人が多く、空気がおいしい。
好きな場所がきっと見つかる
森と緑のまち・緑区へようこそ。

横浜市緑区





Message

豊かな森や本格的な農が身近にありながら、
やりたいことや行きたいところにすぐに手が届く。

視界に入る風景のどこかには

必ず森や田んぼ、川や畑があって。

生き物たちがそこを選んで棲みついたように、

人々もまた、ここが好きになっていく。



日々の暮らしの中、みんながそれぞれ、
ありのままにいられる大らかな余白のあるまち。

穏やかな心地よさと便利さをあわせ持つこのまちの魅力を、
今まさに緑区で活躍しているナビゲーターの皆さんとともに、
ご案内しましょう。



Contents

Message	01
緑区DATA	02
この本のナビゲーターの皆さん	02
緑あふれる幸せな光景	03
農が育むサステナブルなまち	05
子育てしやすい施設や制度	07

人のつながり まちを居心地よく楽しく彩る	09
緑区の自治会	11
緑区の商店街	12
ココロ踊るイベントがたくさん!	
緑区カレンダー	13
こんな時、あんな時に出かけたい	
公共施設情報	15
緑区ってこんなまちMAP	19
ナビゲーターと語らう緑区の魅力	
緑とつながる縁がある	21

緑区DATA

人口 182,598人

区面積 25.51km²

(「横浜市統計書」令和7年1月1日現在)

緑被率 40.6%

緑区の総面積に対する緑比率
(令和元年度緑被率調査)

横浜市内で
1位

History

昭和44年に港北区から分区し誕生した緑区は、
平成6年の行政区再編成により現在の区域となり、
令和元年に区制50周年を迎えました。
緑区の区名は一般公募の中から決定し、
「緑を美しく保存したい」という願いが込められています。



緑区キャラクター
「ミドリん」



この本の ナビゲーターの 皆さん

ブルワリー経営

石田美寿々さん

緑区十日市場町にある明治7年創業の「株式会社 坂口屋」取締役。この地でこだわりのクラフトビールを作り販売する「TDM 1874 Brewery」を営みながら子育て中。

子育て支援

松浦千恵さん

緑区子育て支援拠点「いっば」施設長。設立時から事務局長としていっばを支え、令和2年より現職。運営団体のNPO 法人グリーンママの理事長も務める。



落語家

瀧川鯉丸さん

緑区中山エリアに令和元年に転入。都心中心に日々各地の高座に出動する子育て世代。緑公会堂やみどりアートパークでの寄席にも出演している。

農家

佐藤愛美さん

十日市場で代々続く農家を継ぐ女性農業者。直売所「野彩家 佐藤農園」を切り盛りし、SNSで旬の作物や農作業の様子を発信。

森と里山の保全

吉武美保子さん

新治里山公園指定管理者 NPO法人新治里山「わ」を広げる会事務局長。長年横浜の森と里山の保全に尽力し、農のある暮らしや人と自然のかかわりに詳しい。

緑あふれる幸せな光景

風に揺れる木々の葉、きらきら光る木漏れ日。

近代的な街と隣り合わせに、豊かな自然風景が広がっている横浜市緑区。

人と共存するやさしい緑の中で、地に根付いた時間が流れています。



新治市民の森&新治里山公園

今に残る貴重な 里山空間

緑区には、昔から人々がていねいに手をかけてきた森や里山の空間が多く残されています。かつては薪や炭、生活道具に使う材料、野山の実りなどを育み利用していました。四季折々の身近な自然とともに、地域に根ざした暮らしや文化を大切にしています。森や谷戸を散策したり人が集えるようにしたオープンな緑地は「市民の森」や「公園」などに整備され、街のすぐそばにあります。この自然の中で、地元の人も遠くからの人もゆったり思いおもいに過ごせます。



★

新治地区は保全活動をする団体が田んぼや森、川の手入れをし、タヌキやカエル、多くの野鳥や昆虫など、他に類を見ないほど生き物の多様性が保たれています。新治里山公園は「にはる里山交流センター（旧奥津邸）」として、里山に集う人たちの交流の舞台となっています。（新治町887）



にはる里山
交流センター
吉武美保子さん

緑区は広い農地があちこちにあり、緑被率が40%以上と市内1位。30%を切る区も多い中、農や里山という身近な人の暮らしと接してきた緑が残っています。

それも、イノシシやクマが生息するような森ではなく、街の人に優しい緑。この気持ちよく暮らせるための緑は、横浜という大都市の中にある重要なコンテンツです。

自然の中で 自分らしく子どもが育つ

緑区では「プレイパーク」という遊び場や、園舎を持たず親自らが保育を行う「青空自主保育」といった自然の中で子どもの育ちの場をつくる活動があります。

プレイパークは子どもたちの「やりたい!」気持ちを大切にしたい遊び場です。子どもたちは学年や学区を越え、遊びを通して相手を理解していきます。「じっくり」も、「思い切り」もどちらもあっていい。「自分らしく」に戻れる場所です。（三保町930-8）

三保ねんじゅ坂プレイパーク



近くの森や公園を、 当たり前大切に

公園や市民の森では、近隣の住民がボランティア団体を組織し、行政からの支援も受けながら自分たちで公園を清掃したり、イベントに利用したりできる仕組みがあります。緑を大切に思う気持ちを持つ人が多く、安全に気持ちよく過ごせる緑地が、受け継がれています。

かつて不法投棄の多かった鴨居原の森は、「鴨居原市民の森愛護会」による継続的なクリーンアップ活動（清掃活動）が行われ、今では地域に愛される憩いの場となりました。「故郷の森」として思い出に残るよう、季節ごとに様々な行事やイベントが開催されています。（鴨居町）

鴨居原市民の森



お気に入りの 公園でのんびり 自由時間

緑区には谷戸や森、川沿いや街中などに大小様々な公園や市民の森が150カ所以上もあります。広い敷地、園内に里山や芝生広場、大型遊具、じゃぶじゃぶ池、野球場やテニスコートなどを持つところも。

丘陵にある県立四季の森公園は特に設備が充実しており、噴水や展望台、ジャンボすべり台などが子どもに人気。四季折々の景色は年齢問わず楽しめます。（寺山町～旭区上白根町）



神奈川県立 四季の森公園

★



★



農が育むサステナブルなまち

芽吹き春、鏡のように輝く水田や、実りの秋に映える黄金色の稲穂の波。
農の風景が人々の心を癒し、子どもたちは作物が育つ様子を肌で感じながら成長します。
大地を耕し、収穫を喜びおいしく味わう……人の暮らしの原点がこのまちにはあります。

横浜屈指の農業のまち・みどり

都市農業が盛んな横浜市。
特に緑区は昔からの農地が保たれ、
今なお農業が盛んな区です。
「地域の人に、新鮮でおいしい野菜を
食べてもらいたい」
「もし大災害が起きたとしても、
ここに食料があると知ってもらいたい」
そんな思いから
農家が経営する直売所も数多く、
農業を体験できる機会も豊富です。



区内の直売所を紹介するマップや、市内産の農畜
産物を使った料理を提供する飲食店を掲載した
マップを緑区役所や直売所などで配布しています。

緑区の農DATA

(2020年農林業センサスより)

樹園地の経営耕地面積が
市内1位！

農畜産物を消費者に
直接販売している経営体の数は111、
市内2位！

少量多品目の生産をしている農家が多く、
いろいろな種類の野菜がある。

経営耕地総面積(田畑・樹園地)は
市内3位！



農で感じる幸せ“地産地消”

地場産の農畜産物を地域の人が消費する「地産地消」。採れたての新鮮な作物を顔
の見える農家から購入できる安心感や、浜なし・浜ぶどうといった収穫量が限られて
いるブランド作物、流通に乗らないレアな野菜を購入できる魅力があります。



注目！みどりの農TOPIC

緑区産クラフトビール 農×Beer (のびーる)

生産される作物をビールにして地域の方々に味わってもらい、
身近にある農業や醸造所の存在を知ってもらいたいとの願いが込められて
誕生したクラフトビール。横浜市のふるさと納税の返礼品にもなっています。



佐藤農園の作物
レモン、玄米、
赤しそ

佐藤農園が
肥料として使用

SDGs!
持続可能な
農業へ

ブルワリーで
ビールに加工！



製造工程で出る
ビールかす

お米(玄米)は
保存が効くので、
年中ビールを生産でき、
多くの量を
出荷できます！

世界の人が横浜・十日市場を
ビールで知ってくれるようになったら
すごく嬉しいです。
併設するパブでも気軽に飲んで
もらうことができます。



佐藤農園
佐藤愛美さん

野彩家 佐藤農園

できるだけ農業を使わない栽培
方法で、年間100種類以上の作物
を育て直売。
(十日市場町819-10)



TDM 1874 Brewery
石田美寿々さん

TDM 1874 Brewery

150年続く地元の酒類販売業「坂口
屋」が平成29年よりオープンしたク
ラフトビール醸造所。パブ&リカー
ストアを併設。(十日市場町835-1)



卵屋さん直営！直売所が素敵なスポットに♡



前田養鶏直売所

まるでおしゃれなカフェのような
この建物は、北八朔町で60年間
養鶏業を営む前田養鶏場の直売
所です。卵の直売に加え、月に数
回ランチタイムにキッチンカーが
来店したり、雑貨なども販売して
います。(北八朔町1210-4)



新鮮な卵をふんだんに使った
濃厚プリンと台湾カステラも大好評



子育てしやすい施設や制度

豊かな自然環境がどのエリアにも広がって、のびのびと子育てするのにぴったりな緑区。
自然を生かした教育や保育を行う場もあり、子育てをサポートする制度や活動が整っています。

教育や文化活動を深められる

緑区には多くの学校があるほか、図書館や文化発信に特化した公共施設もあります。読書をしたり、創作活動をしたり。たっぷりの自然に囲まれたこのまちで、大人も子どもも、じっくりと学びを深めてください。

緑区地域子育て支援拠点 いっぱ



親子の居場所でほっとできる

初めての子育てで慣れないことがいっぱいでも、このまちなら、頼れる先や相談窓口があちこちにあります。少し助けてほしい、情報がほしい、ちょっと休憩したい……。そんな時には、ご近所にある“親子のひろば”へどうぞ。緑区の子育ての中核施設である「いっぱい」では、子どもを遊ばせたり、絵本の読み聞かせを楽しんだり。ランチタイムに利用者が一緒に食事をとれる日もあり、気の合う仲間や相談できる先を見つけることができます。



いっぱい施設長
松浦千恵さん

この地域には、緑が多いことを大切に思っている人が多いのかなと思います。
穏やかであくせくしていない人が多く、一緒に子育てをしていこうという仲間のつながりがつくりやすい地域性があるように感じます。



0歳から未就学児の親子がいつでも好きな時に来て、遊んだりお話ししたりのんびりゆったりする場。子育てのヒントや情報も得られ、子どものことや、自身についての相談もできます。(十日市場町817-8)



アートや芸術作品の展示や公演だけでなく、地域の子どもや大人が参加できる講座やイベント、アートフェスも開催しています。

緑区民文化センター
みどりアートパーク



かつての街道沿いの要衝だった長津田宿のある地に文化芸術の発信拠点があります。「文化芸術を通じて地域の人々の絆をつくる」ことを目的に、経験を重ねたスタッフたちが多彩な文化の催しを企画しています。(長津田2-1-3)

令和元年に引っ越してきてから、みどりアートパークや緑公会堂で寄席をやらせてもらっています。
緑区には大山街道や中原街道、鎌倉道もあって、たくさんの人が行き交ってきた歴史あるところなんだとわかってきました。
各地の演芸場や会場に行くんですけどね、JR横浜線は乗り換えがしやすく、遠方へはエイヤツと新横浜から新幹線でも行けちゃう。
自分にとって緑区は、文化的な魅力もあるし、いろんなところへ自由自在に行ける場所です。



落語家
瀧川鯉丸さん



緑図書館



緑図書館キャラクター
ぶっくまおやこ

人生をより深く、豊かにしてくれる読書。本の読み聞かせでは、親子の絆を深めたり、言葉や感性を磨いたりすることもできます。緑図書館では、赤ちゃん向けの絵本選びに迷った時のために緑図書館オリジナルの「絵本セット」を用意。地域をあげて、子どもと本をつなぐ取組に力を入れています。学校や保育所などへの貸出しや、読み聞かせも実施しています。(十日市場町825-1)

人のつながり まちを居心地よく楽しく彩る

「子どもたちに安全に過ごしてほしい」、「自然を愛で、手入れしながら楽しいイベントもしてみたい」……ただサービスを受け取るだけではなく、住民自身も何かができる。そんな人と人をつなぐのりしろならぬ”かわりしろ”が、緑区にはたくさんあります。



人が集い、活動できる地域の居場所

地域の人が集える場として「居場所」と呼ばれる新しいスポットが増えています。子育て・シニア・多文化交流・アートなど共通の関心ごとを持つ仲間たちの活動拠点となっています。



ぷらっと kiricafe

インド人をはじめとする外国からの住人が多い霧が丘団地で、支え合う地域をつくりたいと発起されたコミュニティカフェ。ママ友やシニア、多文化交流などいくつかのグループが集まり運営されており、カフェ営業のほか、高齢者や子ども向けのプログラムを実施。(霧が丘3-26-1 205 霧が丘商店会)

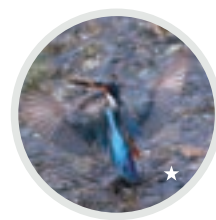


職住一体型地域ステーション Co-coya

中山の住宅街の一角にある、築70年の空き家を日本の伝統工法を使ってリノベーションしたシェアオフィス&コミュニティスペース。パティシエや画家、ペンガラ染め職人、陶芸家といったアーティストが入居し、イベントには地域内外から人が集まります。(中山5-9-11)

川を舞台にした市民活動

緑区には、鶴見川や恩田川をはじめ、美しい自然が残る川沿いをフィールドに活動する市民の姿もあります。



鶴見川鴨居河川敷を拠点に、憩いの場づくりのために河川敷の清掃や植栽の手入れなど環境保全活動をしているボランティアグループ。散策やカヌーなど、川をフィールドにしたアクティビティを楽しんでいます。(鶴見川鴨居河川敷周辺)

みどり・川と風の会



大学生がまちに元気を吹き込む

緑区には6つの大学があり、学生と地域の交流も盛んです。



神奈川大学体育会サッカー部・ 竹山団地プロジェクト「竹山カフェ」

竹山団地では神奈川大学サッカー部の学生が寮生活を送っており、学生たちは自治会の防災訓練や花火大会、スマホ相談など住民をサポートしながら交流しています。団地内商店街にある神奈川大学サッカー部食堂にはコミュニティカフェもオープン。介護予防教室などを運営し、学生にとっては社会経験を積む場にもなっています。(竹山3-1-8 県公社竹山団地3101棟14号)

みどりスポーツフェスティバル



緑スポーツセンターで毎年開催されるスポーツ体験会。ナインボールやポッチャ、カラーリングなど、子どもから大人まで楽しめるスポーツを体験!親子のふれあいや地域のひととの絆を深められます。(本イベントについてはP13、緑スポーツセンターについてはP16にも記載しています)

スポーツイベントで仲間をつくろう!

地域の運動会のほかにも区をあげてのスポーツイベントがあり、区民同士が交流できます。同じスポーツを楽しむ仲間を見つけてみては?!



緑区ランニングフェスタ

日産スタジアムがある新横浜公園で開催される5kmのロードレース大会。成績優秀者には横浜マラソンの出走権がプレゼントされ、企業の陸上競技部の選手をゲストランナーに迎えるなど活気あるイベントです。(本イベントについてはP14にも掲載しています)

緑区の自治会

活発でオープン！
／ご近所を楽しもう／

自治会は、地域をつくる立役者。
転入者も代々続く住民も、
自主的な組織としてつながり合い、
自分たちの暮らす地区が気持ちよく
安心して住めるよう活動しています。



花火大会
(竹山地区)



桜まつり
(鴨居地区)

盆踊り大会
(寺山町自治会)



防犯パトロール
(長津田地区)

緑区には122の自治会があり、会員の親睦・
交流のための行事をはじめ、町の美化活動、
ごみの分別収集の呼びかけ、防犯・防災活動
などを行っています。住民同士の親睦を図る
運動会や盆踊り、夏祭り、餅つき大会などの
地域のイベントも開催しており、コロナ禍の
休止を経て行事や活動を再開し始めたところ
も多くあります。社会全体で在宅での働き方
が広がったり、子どもの貧困や高齢者の独居
などが身近にあることも浮き彫りになってき
た現在、自治会をはじめとした小さな範囲で
の住民相互の活動の大切さが大きく見直され
るようになりました。

街の
／にぎわい／

緑区の商店街一挙公開！

中山、長津田、鴨居、十日市場……緑区のにぎわいある街はどれも店舗や施設が
充実し便利なのが魅力です。商店街も区内6カ所にあり、おしゃれなショップや
昔ながらのなごみお店が数多く加盟。盛大なお祭りやお花見を運営したり、
地道な防犯活動を行うなど、地域と一緒にまちづくり活動を担っている存在です。



中山商店街

JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅
の南北に広がる緑区最大の商店街。毎年11月3日に
盛大な「中山まつり」を開催。県立四季の森公園やよ
こはま動物園ズーラシアへのアクセスポイント。



竹山団地中央商店会

竹山団地の中にあるほのぼのとした雰囲気の商店
街。池の中のカモや、野鳥のスポットとしても知られ
る地域の憩いの場。JR線「鴨居」駅からバスで10分
ほど。毎年夏に花火大会を開催。



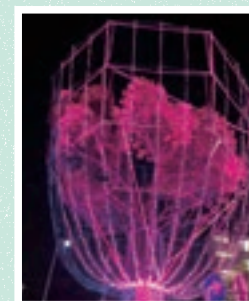
長津田商店街

JR横浜線・東急田園都市線・こどもの国線が通る
「長津田」駅周辺の商店街。長津田地区は旧大山街
道の宿場町として栄えた歴史的財産に富み、「納涼
盆踊り大会」や「長津田まつり」などを開催。



緑新栄会

「中山」駅南口の線路沿いにある商店街。飲食店や
スナックなどが多く、ネオン輝く昭和レトロな街並み
が「緑区遺産 第1号」に認定されている。夏には大
人も子どもも楽しめる納涼祭を開催。



鴨居商栄会

JR横浜線「鴨居」駅近くの商店街。春の鴨居桜まつり
や冬の風物詩「カモイルミネーション」など季節を感
じるイベントで賑わう。「関東の富士見百景」に選ば
れた鶴見川にかかる鴨池橋へも近い。



霧が丘商店会

団地内にありながら外からの利用も多い。商店街
から子どもが屋内で自由に遊べる「ログハウス」の
ある霧が丘公園へも歩道が続く。地域全体でインド
との交流が盛んで国際色ある店舗も増加中。

ココロ踊るイベントが
たくさん!

緑区カレンダー

季節折々のイベントやお祭りは、迎える人も訪れる人も、
誰もが主役の晴れの日です。人と人のつながりを
感じながら、「楽しいね」や「おいしいね」が
笑顔とともにあふれるひと時を、さあ、一緒にどうぞ。

他にもさまざまなイベントが
たくさん開催されているよ。
ぜひ地域の情報を
チェックしてみてね。



緑区キャラクター
「ミドリ」

3月

春の訪れを感じに鶴見川へ♪ 鴨居桜まつり

鴨居東本郷
農専地区付近



満開の桜並木と50もの
ブースや屋台を楽しめる
盛大なお花見イベント。

6月

笑顔あふれるスポーツ体験 みどリスポーツフェスティバル

緑スポーツセンター



小さな子どもから大人
まで、色々なスポーツ
種目を楽しみながら体験
しよう!

11月

地域をあげての恒例イベント 中山まつり・長津田まつり

(中山まつり)中山駅南口商店街通り
(長津田まつり)大林寺山水閣広場



40回以上の開催を重ねる駅前商店
街の盛大なお祭り!(中山まつり)



楽しい催しが盛りだくさん!長津田地
区の秋の恒例行事。(長津田まつり)

7月

夏の風物詩!大輪の花火と屋台 竹山花火大会

竹山団地
中央商店会



たくさんの出店ブースが
軒を連ねる中で、色とり
どりの花火を堪能。

8月頃

子どものまちづくりイベント Mini Mini Midori

緑公会堂



学区や学年を越えて
集まった子どもたちが
主体となり、お店や街
の施設を運営。

8月頃

夏とったら盆踊り! 夏まつり・ 盆踊り大会

緑区各地域



屋台や抽選会、昔ながらの太鼓の音に
合わせた踊りで盛り上がります。

10月

緑と森のフェスティバル 緑区民まつり

四季の森公園、緑区役所、緑公会堂ほか

緑区の魅力が大集結!飲食
ブースや区民によるステージ発
表、各種体験や展示が多数。



9月~1月

赤ちゃんや就学前の 子どもたち集まれ みどりっこまつり

緑区内4エリアにて



手遊びやリトミック、おはなし会、
近隣の保育園情報の紹介など。

11月

ご近所が交流する
ローカルなお祭りも

ひがほん郷まつり

東本郷小学校にて



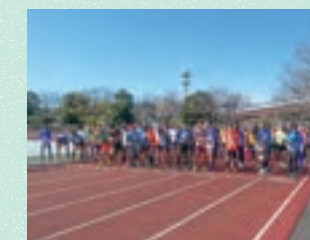
“ひがほん”とは東本郷のニックネー
ム。コロナ禍を経て、待ち望まれた
お祭りです。

12月

ビギナーもベテランも
楽しくランニング

緑区ランニング フェスタ

新横浜公園にて



緑あふれるフィールドをみんなで駆
けぬけよう!



こんな時、あんな時に出かけたい

公共施設情報

文化・芸術に ふれたい！



緑区民文化センター

みどりアートパーク

本格的な演奏会や演劇ができる334名収容のホールのほか、リハーサル室・ギャラリー・練習室・会議室があります。音楽やお芝居だけでなく寄席やダンス、講演会、集会、各種展示など多彩な催しを通年開催。



この施設はP8でも紹介しています。(長津田2-1-3 JR横浜線・東急田園都市線・こどもの国線「長津田」駅徒歩4分)

地域に
根ざした
アートの拠点



508席の
大規模ホール

緑公会堂

緑区役所に併設している緑公会堂の中の講堂（多目的ホール）は、音楽やダンス、演劇など地域の皆さんの発表や催しにぴったり。控室と会議室もあり、講習や会議にも使えます。



写真は横浜市消防音楽隊による避難訓練コンサートの様子。(寺山町118 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅徒歩5分)



この施設はP8でも紹介しています。
(十日市場町825-1 JR横浜線
「十日市場」駅徒歩4分)

緑図書館

緑区の
知の拠点！

11万冊以上の蔵書の中から1人10冊まで貸出し。絵本や児童書、地図や新聞・雑誌はもちろん外国語図書や紙芝居、文学作品の朗読を録音したCDブックもあります。季節などのテーマに合わせた展示やおはなし会の開催など、楽しい催しも。

市民が本を持ち寄る小さな図書館 「まちライブラリー」

緑区には15か所あり、設置場所は、みどリーむ（緑区市民活動支援センター）、緑区地域子育て支援拠点（長津田地区センター、長津田地域ケアプラザ、緑区内のすべての郵便局（10局）、Tama Cafe（台村町））。



多様な文化に
ふれられる

多文化共生 誰もが住みよい 地域へ

みどり国際交流ラウンジ

緑区には、約80の国・地域の外国人市民が暮らしています。言葉や文化、習慣が異なる外国人と日本人が互いを理解し合えるように、外国人の支援や相談窓口、日本語を学ぶ支援などを行っています。



地域との交流や国際交流イベントも開催。日本語が分からない外国人のための通訳ボランティアも派遣しています。
(中山1-6-15 パームビュービル5階・6階 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅徒歩2分)

スポーツ したい！

体を動かすって
気持ちいい！

緑スポーツセンター

市民が気軽にスポーツを楽しめる施設です。大中小3つの体育室ではバドミントン、卓球、バスケットボール、バレーボール、フットサルなどができ、機器を備えたトレーニング室でパーソナルトレーニングも受けられます。



各種球技や親子リトミック、ヨガ教室など多くの教室を開催！
(中山1-29-7 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅徒歩3分)

地域交流の場

もたくさん！



緑区市民活動支援センター

みどりーむ

市民団体や NPO、自治会といった市民の自主的な地域活動を支援する施設が横浜市では各区にあります。緑区にある拠点は中山にある「みどりーむ」。市民活動や生涯学習の相談、情報の発信を行っています。打合せや印刷作業に利用できます。

最初の
一歩を応援！

地域で活動する人たちの交流イベント「Open!みどりーむ」



子育てや趣味など、さまざまな分野に踏み出した市民団体や、豊かな知識・特技をもったボランティア「ちょっと先生」が、みどりーむを舞台に活動中！皆さんの知りたい・やってみたいを応援します。
(中山 4-36-20 JR 横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅徒歩 7 分)



ご近所の
集いの場

コミュニティハウス

区内の小学校などに併設され、地域住民の集まりや身近な生涯学習に利用できます。大人や子どものための学習・趣味の講座も開催しています。

東本郷小学校コミュニティハウス／竹山小学校コミュニティハウス／森の台小学校コミュニティハウス／山下みどり台小学校コミュニティハウス／霧が丘コミュニティハウス／いぶき野小学校コミュニティハウス



研修室(多目的室)、和室、ミーティングサロン、図書コーナーなどがあり、地域の人たちが利用できます。

趣味や
運動など多目的に
使える場！

地区センター

緑区内に4か所ある広めの交流施設。個人やグループで気軽に利用できます。体育室や調理室、ゲームのできる娯楽コーナーなど交流やスポーツのためのスペースが充実しています。

白山地区センター／中山地区センター／十日市場地区センター／長津田地区センター



写真はケーキ作り教室と“背骨コンディショニング”講座。他にも草木染め教室やロビーコンサート、大人のための食育講座等の開催、地域団体の活動や集会などに利用されています。



身近な
福祉・保健の
拠点！

地域ケアプラザ

高齢者や子ども、障害のある人など、すべての地域住民の健康や福祉に役立つ施設です。緑区内には7か所の“ケアプラ”があります。
東本郷地域ケアプラザ／鴨居地域ケアプラザ／中山地域ケアプラザ／山下地域ケアプラザ／十日市場地域ケアプラザ／霧が丘地域ケアプラザ／長津田地域ケアプラザ



緑区地域
子育て支援拠点

いっぽ

独立した
建物で、
誰でも気軽に！

0歳から就学前のお子さんと保護者、妊娠中の方が自由に来て過ごせる場所です。絵本やおもちゃがあり、赤ちゃんがゆったり過ごせます。地域のイベントや子育てに関する情報が充実しており、子育て中の不安なことや知りたいことなど、スタッフになんでも気軽にお話しください。

※令和6年6月に、長津田に2か所目の拠点「いっぽ サテライト」がオープンしました。

近くの
広場に
行ってみよう

親と子の つどいの広場



中山と鴨居には、マンションの一室を使った親子の居場所もあります。



みどりっこ親子の居場所はなまる

(台村町332-1 第二丸正ビル201 JR横浜線・横浜市営地下鉄グリーンライン「中山」駅南口徒歩3分)



つどいの広場 みらいポケット

(鴨居1-11-2リバーサイド鴨居101 JR横浜線「鴨居」駅徒歩5分)

地域ケアプラザって、
どんなことをしているの？



地域の身近な相談窓口

- 高齢者の介護や成年後見制度の利用など生活全般の無料相談と、関係機関との連絡調整
- 高齢者の方々（要支援1・2の認定を受けた方、事業対象者の方）を対象に、必要なサービスの利用計画（介護予防ケアプラン）を作成 など

地域活性や交流の拠点でもあります！

- 体操教室や食事会、健康講座など生活に役立つさまざまな行事や講座といった催しも開催
- 地域活動の紹介や、子育て・障害やボランティアに関する情報の提供
- 多目的ホールや調理室などスペースの貸出し
- ボランティア活動の相談の受付

子育て・福祉

ニーズに沿った施設
あれこれ



「老人福祉センター横浜
市緑ほのぼの荘」(十日市場町825-1 JR横浜線「十日市場」駅徒歩4分)

シニアに
ための
くつろぎの場

老人福祉センター

緑ほのぼの荘

高齢であっても健康で明るい生活を楽しめるように……と高齢者の生きがいづくりやくつろぎの場として利用できる施設です。健康相談、趣味の教室、レクリエーションの場の提供など、高齢者を支援します。



下／右から左へ松浦千恵さん(緑区子育て支援拠点いっば)、吉武美保子さん(にいほる里山交流センター)、石田美寿々さん(TDM 1874 Brewery)、佐藤愛美さん(佐藤農園)、瀧川鯉丸さん(落語家) 上／緑区区政推進課職員(尾立裕紀[中]、中嶋俊輔[左]、小山瑞希[右])

[座談会] ナビゲーターと語る緑区の魅力 緑とつながる緑がある

本書のナビゲーターを担ってくれた皆さんと、本書の制作年度に区のPRを担当した緑区区政推進課の担当者が集まり、緑区の魅力やそれを維持し発展するアイデア、さらに、緑区の価値をどうしたら内外に伝えられるのかを語り合った様子をお伝えします。

緑区には、“緑”を選んで住む人が多い？

松浦：緑区は穏やかに子育てができるまちだと思います。生活の優先順位の中で、効率や利便性よりも、緑があることや、余白のようなものを大切にしているというか……。心にゆとりがあるので「一緒に子育てしていこうよ」という仲間ができやすい地域のような気がします。

瀧川：私は都心に近いところに住んでいた時、子どもが保育園に全然入れず困っていたところ、緑区に引っ越してきたらすぐにいい幼稚園に入れました(笑)。落語家って寄席で各地に出向くのですが、緑区は緑が多くてのどかなのに、実は新幹線にもすぐに乗れるし、都内にも出やすい。意外と交通の便もいいことに驚きました。

吉武：緑が見えているということ

は、生活に対する安心感そのものでもあります。家から外を眺めた時に、建物やビルではなく森の稜線が目に入ってくるのは、人間の生き物としての感性に何か響いてくるものがあると思います。まさに、人間のDNAの底にある「自然との共生」が、ここ緑区にはありますよね。

若い人も、新しい人にも、オープンでゆとりのある緑区

佐藤：私が農業を始めたこの10年くらいで、若い世代のお客様や農業に関心を持つ方が増えたように感じます。新しいマンションに越してきたばかりの方からハーブ栽培について質問を受けたり、直売所でお客様同士が野菜料理のレシピ交換で盛り上がるなど、コミュニケーションが盛んです。

松浦：近年、自治会の加入率が下がり、公園愛護の活動も新しい人が参加しにくいと社会課題になっていますが、緑区は活動がオープンで、若い人が入りやすい雰囲気がありますよね。

石田：私自身も緑区で子育てして



いて、収穫体験など子どもと一緒に参加できるイベントもあるし、飲食店も子連れOKでやさしく受け入れてくれるところが多い。うちのお店(TDM 1874 Brewery)に来るお客さんは、すでに緑区の魅力を知っていて、緑区が好きな方が多く、お店を介してお客さん同士のコミュニティが生まれています。

小山：緑があるから子育てしやすい、緑があるから暮らしやすい。皆さんがそのように口を揃えることが、まさに緑区の魅力なのだと再認識しました。

吉武：緑って当たり前のようにそこにある存在ではなく、実は地域の人の手で守り育てられているものなんです。三保、新治、鴨居原、長津田宿といった市民の森も、緑を舞台にしたコミュニティがあって、そこに关わることで自分も「緑の生産者」の一部である

と感じられる。すると、農家の方や緑を保全してくださる方への感謝の気持ち生まれ、緑を介して「ありがとう」の交換ができる関係性が育まれます。

尾立：緑区は、農体験や植樹、川の保全など、自然体験ができて、なおかつほどよく便利。何より活動をされている皆さんがいつも楽しそうです。この緑が保たれているのも、自治会やさまざまな地域団体の皆さんの努力に支えられていることがわかり、ありがたい気持ちでいっぱいです。

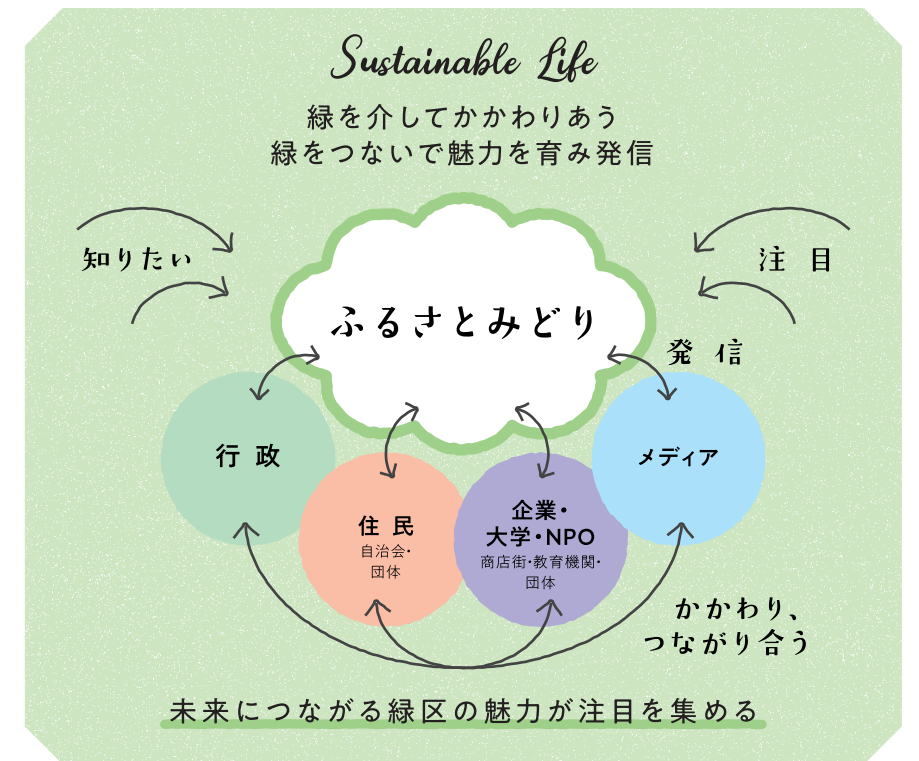
中嶋：「ふるさとみどり」は緑区の基本目標にもなっています。ふるさとのような里山の風景があって、人がありのまま自然体で暮らせるまちであることがよくわかりました。

“緑”と“縁”を大切に、サステナブルな緑区を未来につなぐ

佐藤：緑区の魅力って「自然と都会が隣り合わせ」なところだと思います。

瀧川：都会すぎることなく、自然、住宅地、歴史、未来……いろんなところが接している緑区を一言で言い表すならば、「“中心地”じゃない“居心地”」ってところでしょうか。

吉武：緑区の魅力を語る中で、自ずと“緑”がテーマになりましたが(笑)、よく似た文字で“縁”という言葉があります。人と人をつなぐ縁(えん)とも読み、端っこを表す縁(ふち)とも言います。実は違う環境と環境が合わさるところが縁(ふち)であり、街道の交差や、緑とまちが交錯するのが、



ここ緑区なんですよ。違う環境同士があるからこそ、お互いに思いやりがないと関係性は続いていかない。だからこそ緑を大事にする緑区であってほしいですね。

石田：私はあえて横文字で「サステナブル」という言葉で緑区を表現したいです。緑イコール田舎のイメージがあるけれど、逆に今はおしゃれで最先端だと思うんです。地産地消のおいしい野菜やクラフトビール、自然に近いのどかな暮らし。緑区で送れるサステナブルなライフスタイルが、むしろ今の時代に求められていると言えるのかな、と。

中嶋：緑区では、まさに人と人、人と自然とのかかわり、コミュニケーションの積み重ねによって、地域の魅力が育まれていることがわかりました。私たち区役所の職員も、さまざまなかかわり合いの中で魅力を育む一員であるという意識をもって、窓口を訪れる方にもしっかりと緑区の魅力を伝えていきたいと思います。今日はありがとうございました。

区の職員も緑区の魅力を実感！

